

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 大仙市分析結果

大仙市教育委員会

# I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学
- 4 調査内容
  - ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
    - A：「知識」など基礎学力に関する問題
    - B：思考力など「活用」に関する問題
  - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
    - ・児童生徒に対する調査
    - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成28年4月19日（火）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国（国公立小学校）	20,049校	（実施率 97.4%…1,034,957人）
秋田県公立小学校	203校	（実施率 99.5%……7,435人）
全国（国公立中学校）	10,526校	（実施率 94.1%…1,038,129人）
秋田県公立中学校	116校	（実施率 99.1%……7,831人）

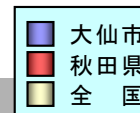
# Ⅱ 教科に関する調査結果

## 1 概要

- 中学校数学A以外が全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。（数学Aは本県平均正答率を若干下回るがほぼ同程度）
- 小・中学校共に活用に関わるB問題において、全国及び本県の正答率を上回っていることから、各学校における組織的な研究体制のもと、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。

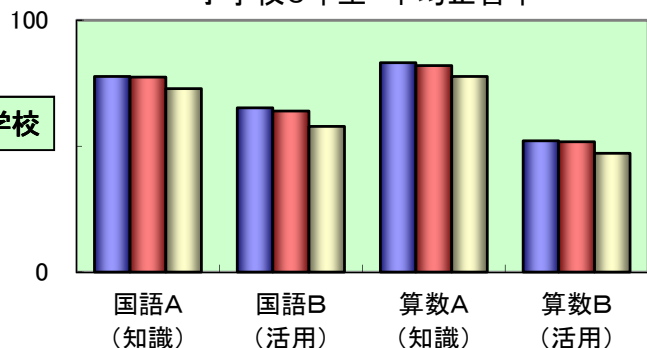
## 2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況

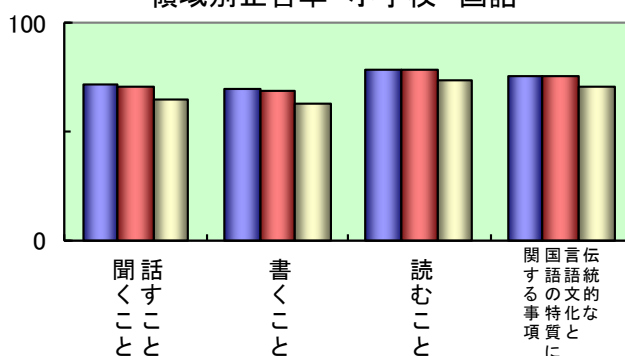


小学校6年生 平均正答率

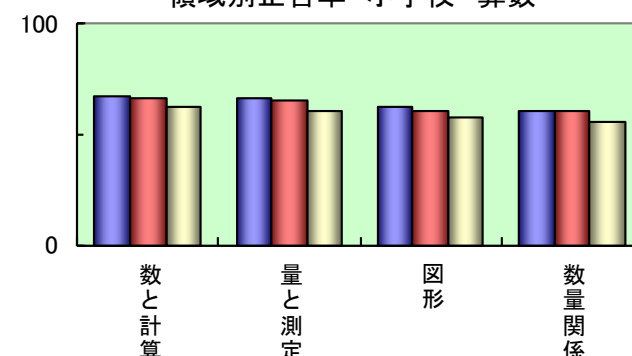
小学校



領域別正答率 小学校 国語

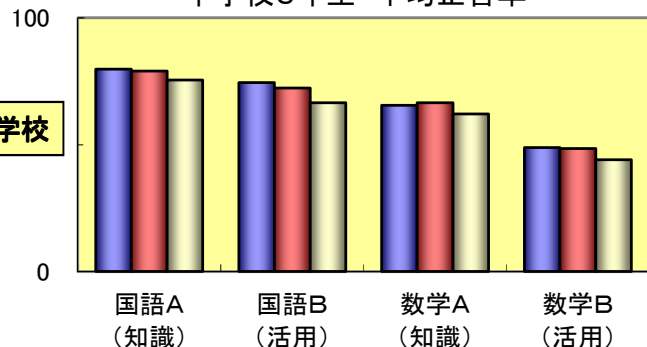


領域別正答率 小学校 算数

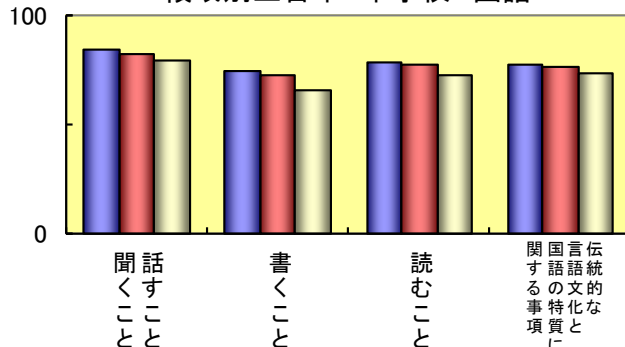


中学校3年生 平均正答率

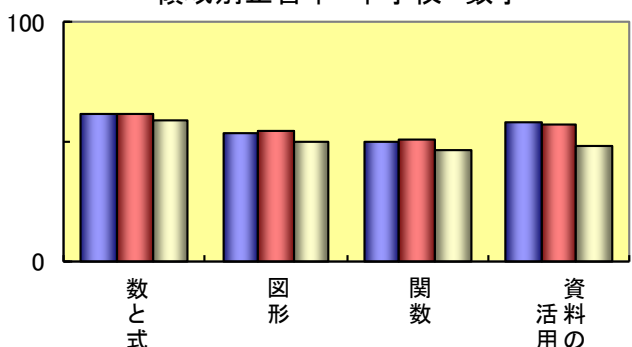
中学校



領域別正答率 中学校 国語



領域別正答率 中学校 数学



# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

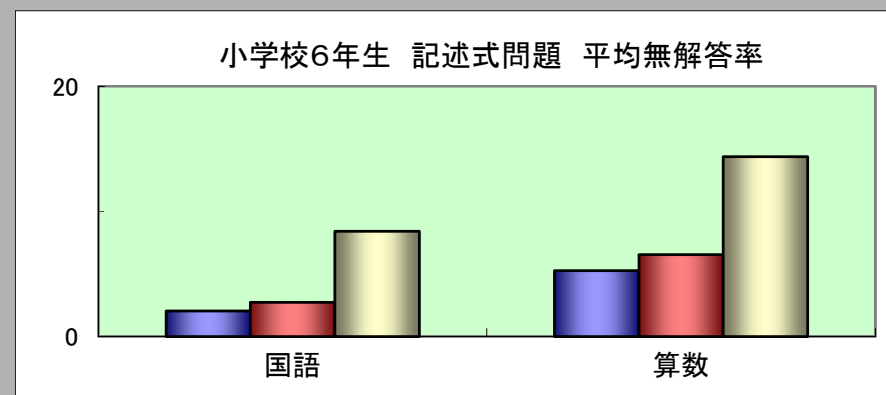
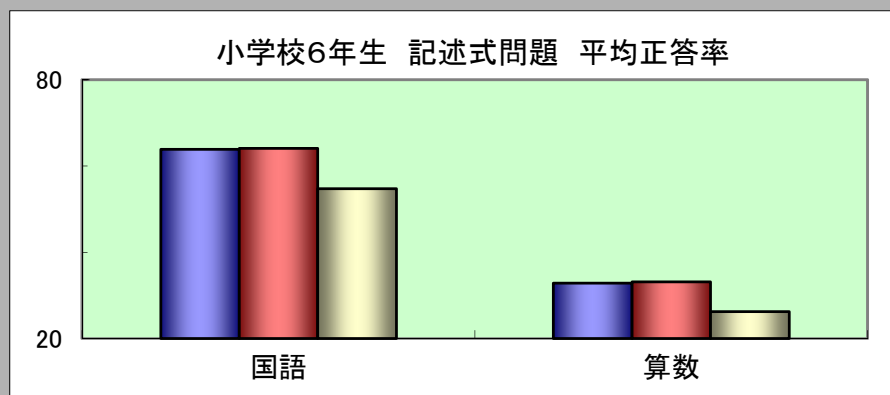
## 1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

○記述式問題で平均正答率が高く、全国や本県を上回っている。また、記述式問題の無回答率については、全国や本県よりも概ね良好な状況が維持されている。

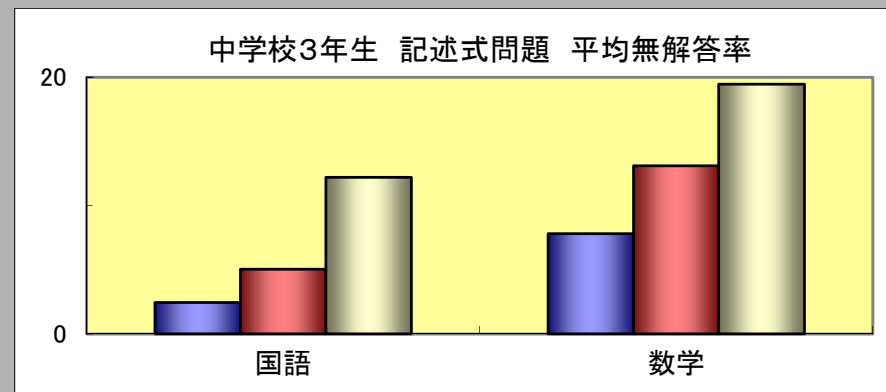
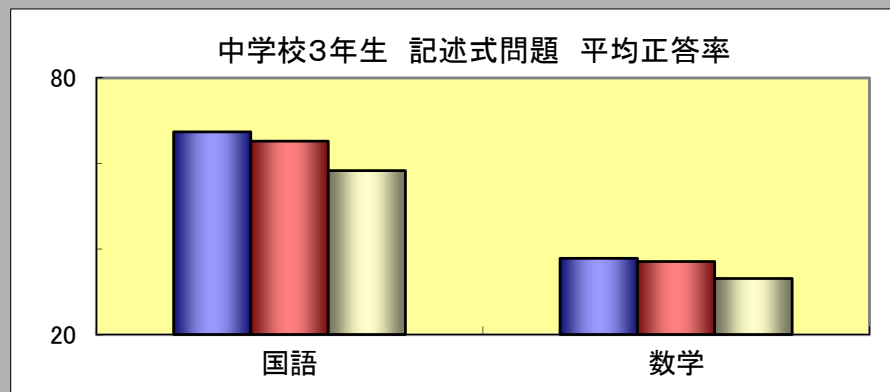
○正答数の分布から、学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。

【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校

■ 大仙市  
■ 秋田県  
■ 全国



中学校

# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

## 2 要因

### ① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

### ② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、ティームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

### ③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表する機会や話し合う活動を取り入れた児童生徒主体の授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠をもとに説明したりするなど、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

### ④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼保・小・中・高・大等との異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

### ⑤ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

- 文部科学省・国立教育政策研究所等の研究指定校事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班の単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援地域本部事業などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
  - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ運動、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅、SNSルールづくり等）の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
  - ・学力向上推進委員会による学習状況調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成
  - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
  - ・学校訪問の実施（教育委員等訪問、教育長等訪問、指導主事訪問 など）
  - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携
  - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進





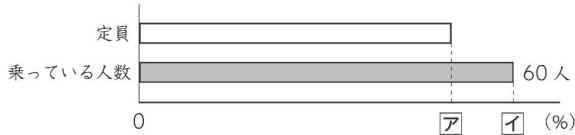
# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

## 【小学校算数A9(2)】

全国平均正答率 50.9%  
県平均正答率 59.6%

○1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している。

(2) バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は、定員よりも定員の20%多いそうです。  
定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中の「ア」と「イ」には、下の4つの数のいずれかが入ります。「ア」と「イ」に入る数をそれぞれ書きましょう。

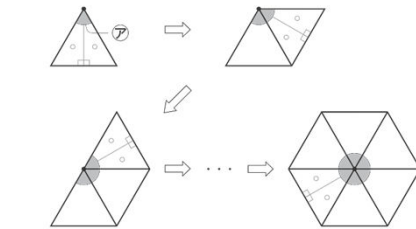
20	80	100	120
----	----	-----	-----

## 【小学校算数B5(1)】

全国平均正答率 6.9%  
県平均正答率 9.5%

○示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる。

アの角が1つの点のまわりに集まるように、①の正三角形を並べていくと、6つで、正六角形ができました。



(1) 次に、下のよう、②の二等辺三角形を選んで形をつくります。

イの角が1つの点のまわりに集まるように、②の二等辺三角形を並べていくと、3つで、正三角形ができました。



360 ÷ 120 は、どのようなことを計算している式ですか。  
言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかわかるようにして書きましょう。

## 課題が見られた問題例(算数・数学)

### 【中学校数学A4(1)】

全国平均正答率 30.9%  
県平均正答率 33.4%

○垂線の作図の方法について理解している。

④ 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の図の△ABCにおいて、下の①、②、③の手順で直線APを作図します。

### ＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝ ■H28年度の調査結果に基づく主な課題

- ・与えられた方法で作図された直線について言えることを選ぶことに課題がある。
- ・記述式問題のうち、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。

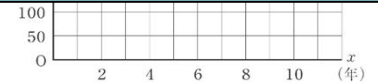
### □指導改善の主なポイント

- ・事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表す活動の充実
- ・図形の性質に着目し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明する活動の充実
- ・数学的な解釈に基づいて、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実
- ・資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動の充実

③ 頂点Aと点Pを通る直線をひく。

この方法によって作図した直線APについて、上の△ABCにおいて成り立つことから、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 直線APは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。
- イ 直線APは、辺BCの垂直二等分線である。
- ウ 直線APは、∠BACの二等分線である。
- エ 直線APは、頂点Aを通り辺BCに垂直な直線である。



このグラフの傾きは、B車についての何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 総費用
- イ 車両価格
- ウ 1年間あたりのガソリン代
- エ 使用年数

③ 航平さんの家では、自動車の購入を検討しています。購入を検討しているA車(電気自動車)とB車(ガソリン車)にかかる費用について、

### 【中学校数学B3(2)】

全国平均正答率 29.8%  
県平均正答率 31.6%

○グラフの傾きを事象に即して解釈することができる。

航平さんは、A車とB車について、それぞれの車の使用年数に応じた総費用を比べてみようと思いました。そこで、1年間あたりの充電代やガソリン代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 1 概要

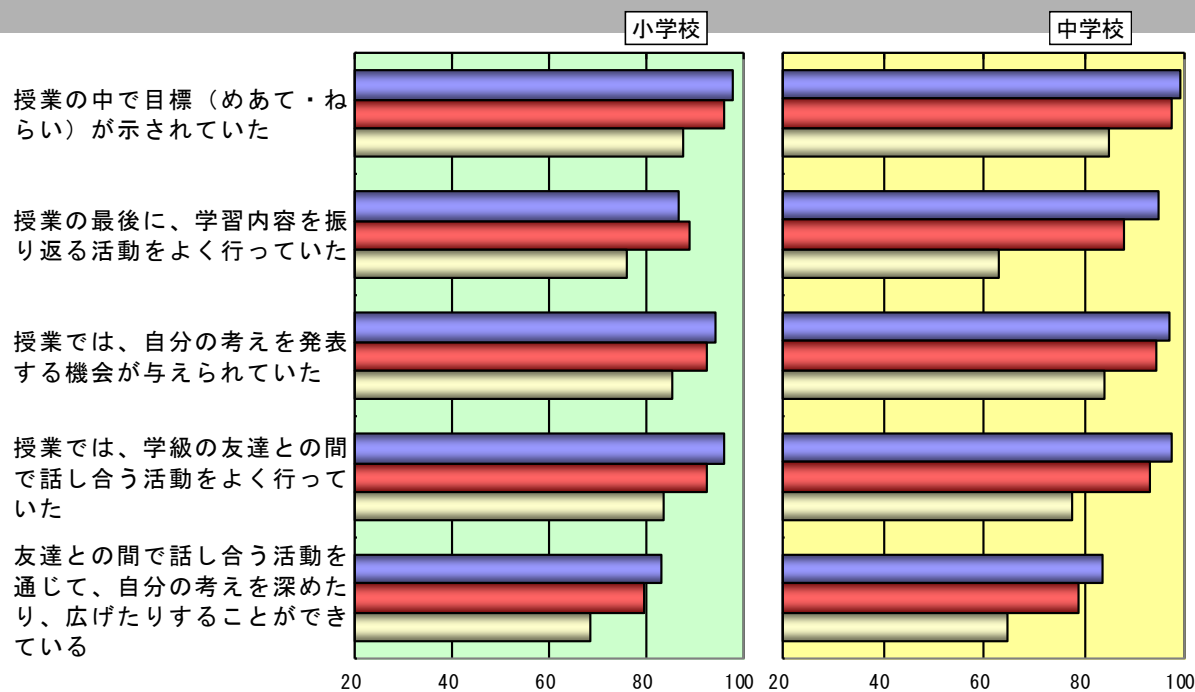
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 子ども主体の授業や達成感、自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで、学ぶ意欲が生まれ、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して、豊かな心が育まれている成果であると捉えている。

## 2 結果

### (1) 学習状況

#### 【資料3】「見通す・振り返る」活動と言語活動

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



- 授業の中で、「目標が示されていた」「振り返る活動があった」と実感している児童生徒は、中学校では全国や本県を、小学校でも全国を上回り、児童生徒の課題意識を大事にした学習の充実が図られている。
- 「考えを発表する機会が与えられていた」「話し合う活動をよく行った」と回答している児童生徒も全国や本県を上回り、言語活動の充実を図るとともに、子ども主体の学習が展開されている。さらに、「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、活動の質が高まってきている。

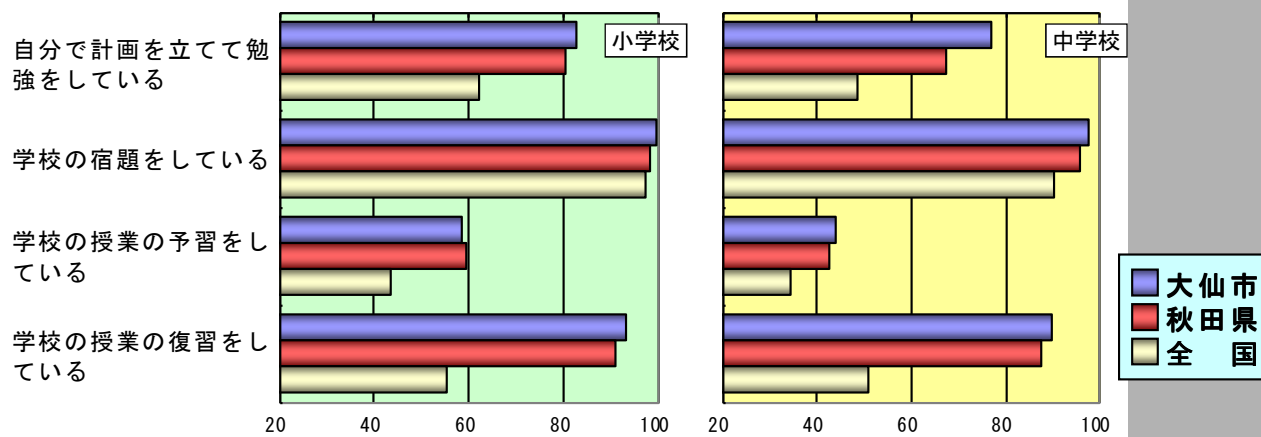


# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

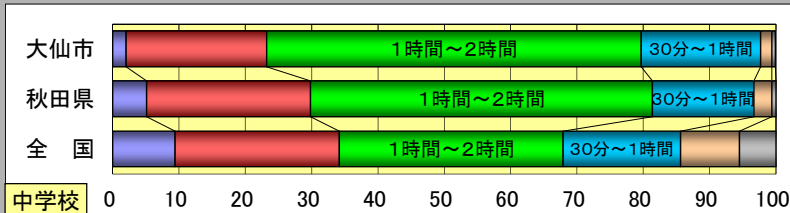
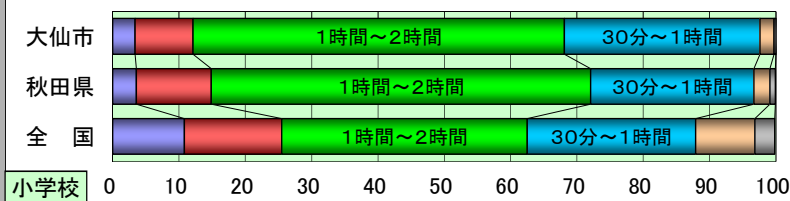
### 【資料4】家庭学習の様子



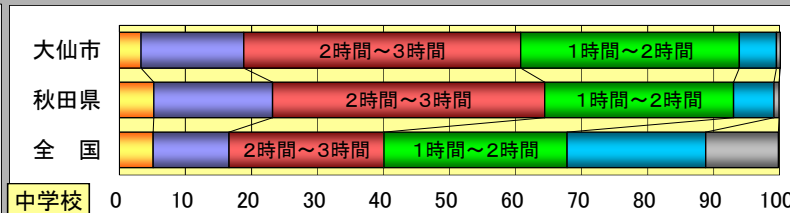
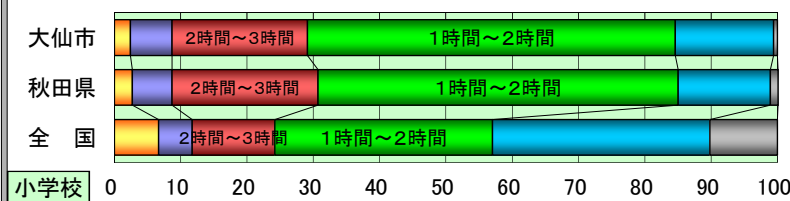
○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の予習、復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。前年度に比べ、中学校では「予習をする」生徒が増えている。

○平日の学習時間が「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に全国や本県より多く、「全く学習をしない」に「学習時間が30分未満」を加えた割合は全国や本県より少ない。ただし、「2時間以上」は、小・中学生共に全国や本県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子が分かる。休日の学習時間は小・中学生共に「2時間以上」の割合が、全国より多い。

### 【資料5-1】平日の学習時間



### 【資料5-2】休日の学習時間



### 【資料6】平均学習時間 [単位: 分]

小学校	平日	休日
大仙市	110	130
秋田県	110	140
全国	110	110

中学校	平日	休日
大仙市	120	170
秋田県	130	170
全国	120	130

平日  
 3時間以上 (purple) 2~3時間 (red) 1時間~2時間 (green) 30分~1時間 (blue) 30分未満 (orange) 全くしない (grey)  
 休日  
 4時間以上 (orange) 3~4時間 (purple) 2~3時間 (red) 1時間~2時間 (green) 1時間未満 (blue) 全くしない (grey)

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(3) 学校生活

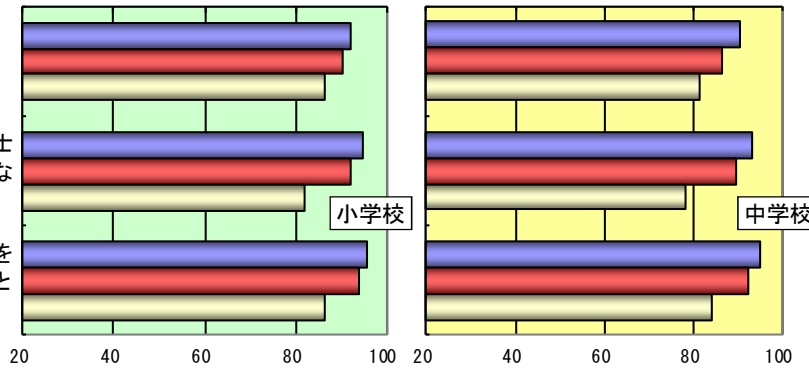
【資料7】学校生活の様子

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

学校に行くのは楽しい

学級会などの時間に友達同士で話し合っ  
て学級のきまりなどを決めている

学級みんなで協力して何かをやり  
遂げ、うれしかったことがある



- 小・中学生共に、全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は楽しく充実した学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「学級会などの時間に友達同士で話し合っ  
て学級のきまりなどを決めている」という設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、話し合い活動により学校生活を向上しようとする特別活動の充実が図られている。

## 2-(4) 生活習慣

【資料8】生活習慣の様子

朝食を毎日食べている

毎日、同じくらいの時刻に寝  
ている

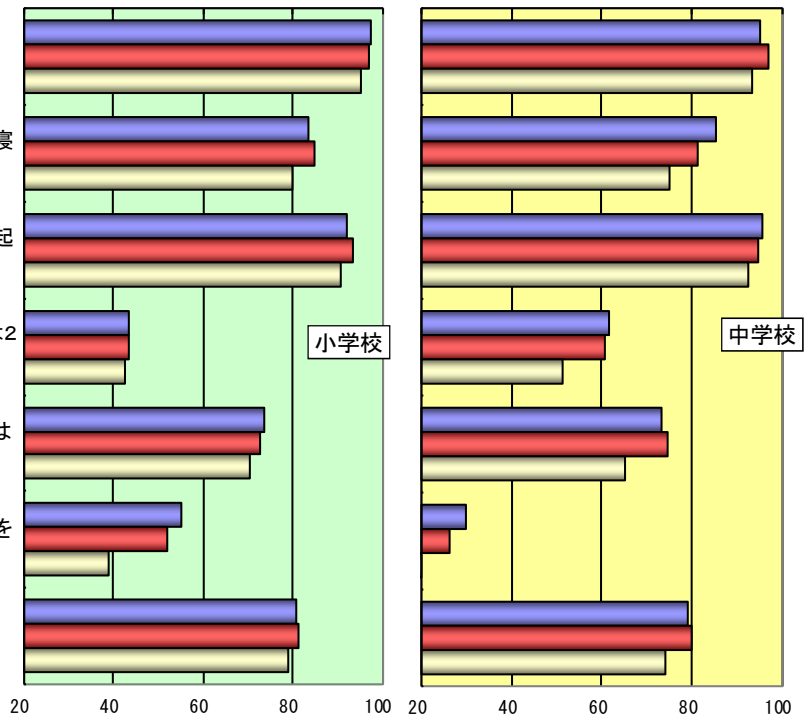
毎日、同じくらいの時刻に起  
きている

平日、テレビやビデオを見る時間は2  
時間より少ない

平日、テレビゲームをする時間は  
2時間より少ない

携帯電話やスマートフォンを  
持っていない

家の人と学校の話をする



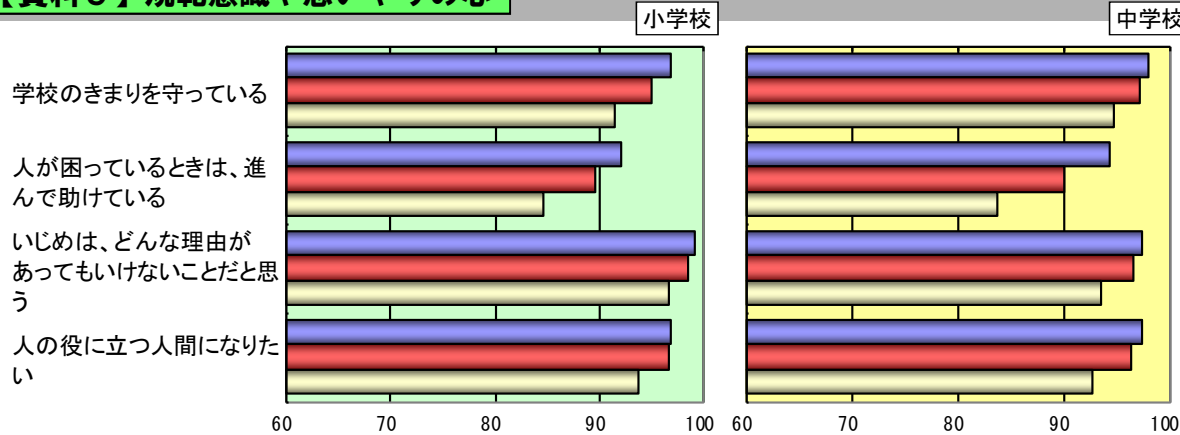
- 小・中学生共に全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は概ね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣や生活規律が身に付いているものと言える。
- 小学校では「早寝」「早起き」、中学校では「朝食を毎日食べる」「平日、テレビゲームをする時間」の項目がやや本県を下回っており、基本的な生活習慣の見直しが求められる。

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2 - (5) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

### 【資料9】規範意識や思いやりの心



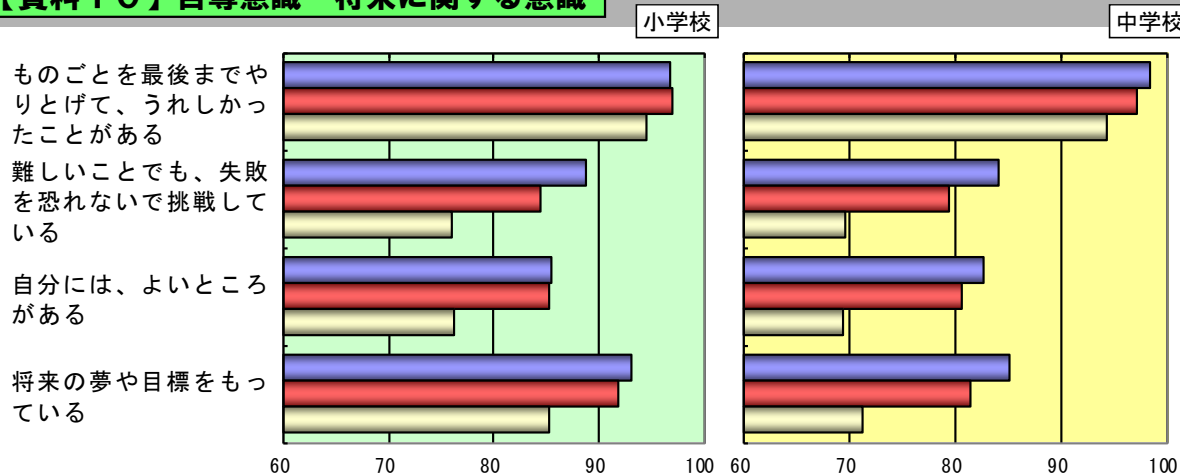
○学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

○中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。

○好ましい家庭生活や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であると捉えている。また、「中(小)学生サミット」によるいじめ撲滅等の取組も、成果に結びついていると思われる。

## 2 - (6) 達成感や意欲

### 【資料10】自尊意識・将来に関する意識



○全国や県に比べ、多くの児童生徒が自己有用感や達成感、成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。

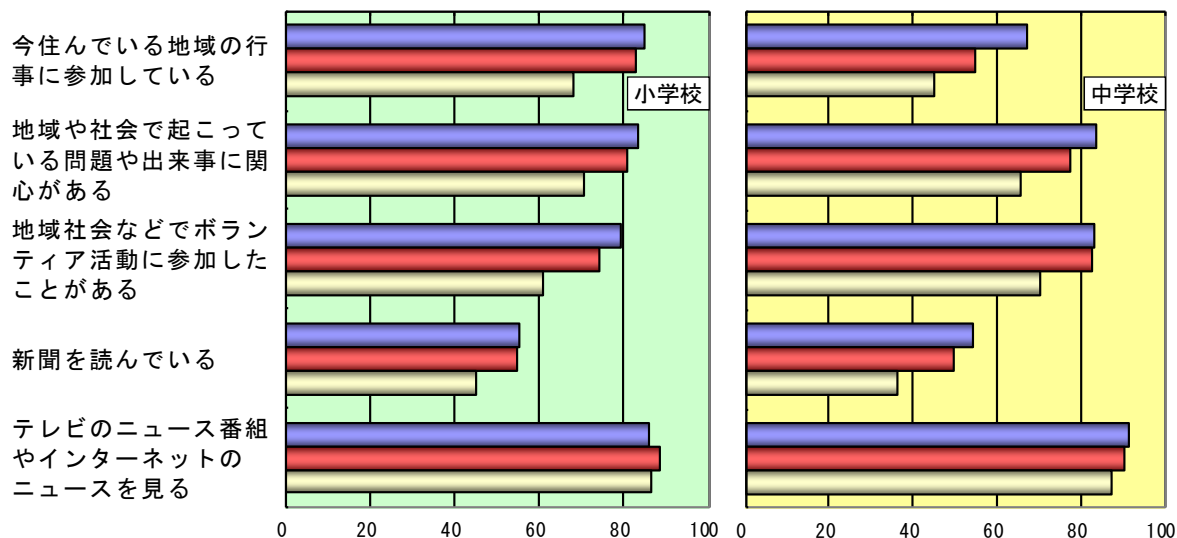
○各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であると捉えている。

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(7) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

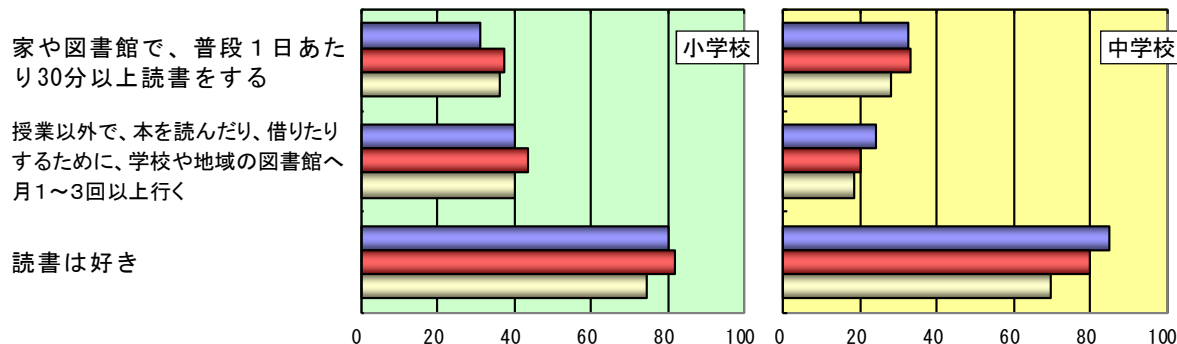
### 【資料11】地域や社会、人や行事などへのかわり



- 小・中学生共に「地域行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答している割合が国や県よりも高い。
- 中学生では、「新聞を読んでいる」「ニュースを見る」の肯定的な回答も国や県より高い。
- 中（小）学生サミットを通してエコ活動や被災地支援・交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

## 2-(8) 読書習慣

### 【資料12】読書に関する状況



- 小学校では、普段1日あたり30分以上読書をする割合や定期的に学校や地域の図書館に行く回数、「読書は好き」と答えている割合が国や県よりも低く、課題である。中学校では、読書習慣の形成が図られてきていることが伺える。
- 中学生は「読書が好き」と回答している割合が国や県よりも高く、小学生も8割は「読書が好き」と回答していることから、家庭における時間の使い方等の見直しを図り、読書習慣の確立につなげていきたい。

# V 学習環境と学力調査との相関

## 1 概要

○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

### 【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている。
- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- ◎学校のきまりを守っている。
- ◎友達との約束を守っている。
- 人の役に立つ人間になりたい。

### 【学習習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 読書が好きである。 ○家で学校の授業の復習をしている。
- テレビやインターネットのニュースを見る。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

### 【調査問題への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- 国語で解答を文章で書く問題に、最後まで書こうと努力した。
- ◎算数・数学で言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題に最後まで書こうと努力した。

### 【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
- ◎友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞く。
- 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている。
- 自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる。 ◎自分の考えを発表する機会が与えられている。
- ◎学級の友達との話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている。
- ◎自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- ◎自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思わない。

### 【国語】

- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- ◎自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。
- 文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる。

### 【算数・数学】

- 算数・数学の勉強が好きだ。 ◎授業の内容がよく分かる。 ○問題を解くとき、もっと簡単な方法はないか考えている。
- ◎解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えている。
- ◎公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。



# V 学習環境と学力調査との相関

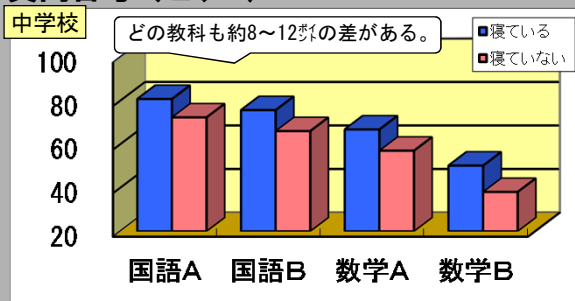
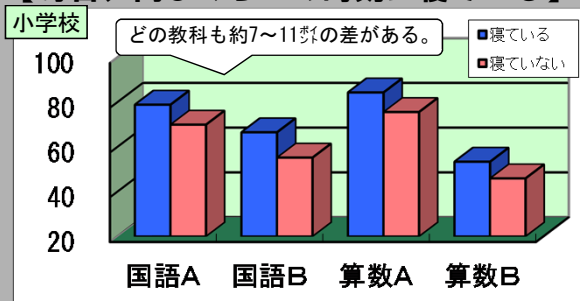
## 2 相関

### 【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

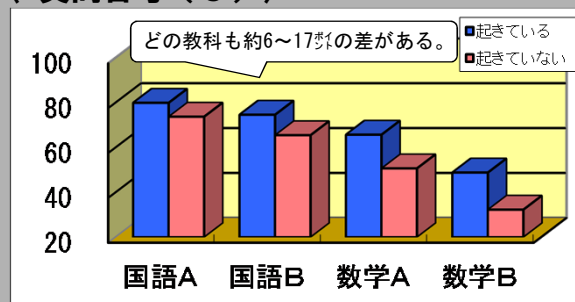
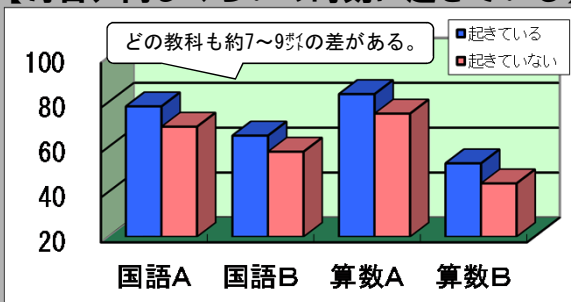
【資料13】

### 【毎日、同じくらいの時刻に寝ている】〈質問番号(2)〉



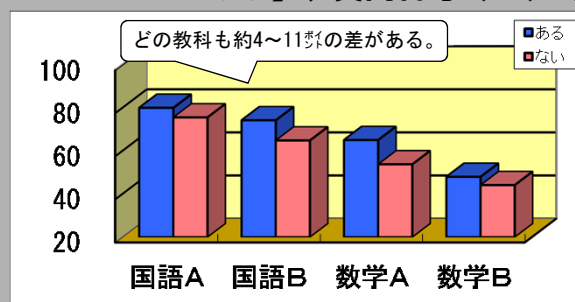
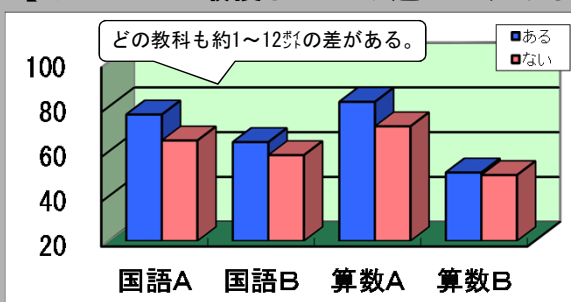
○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますかという質問に、「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号(3)〉



○毎日、同じくらいの時刻に起きていますかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、中学校で相関が顕著である。

### 【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある】〈質問番号(4)〉



○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますかという質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

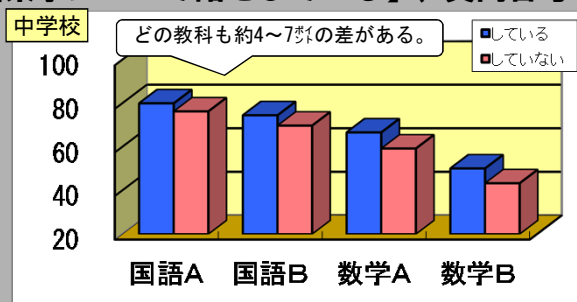
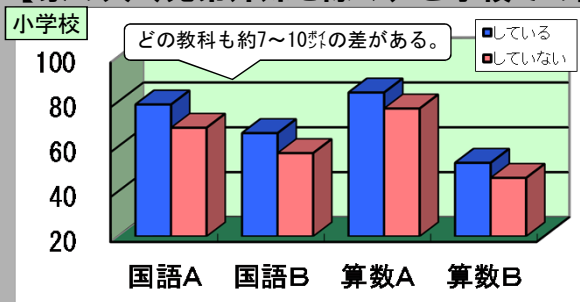
# V 学習環境と学力調査との相関

## 【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

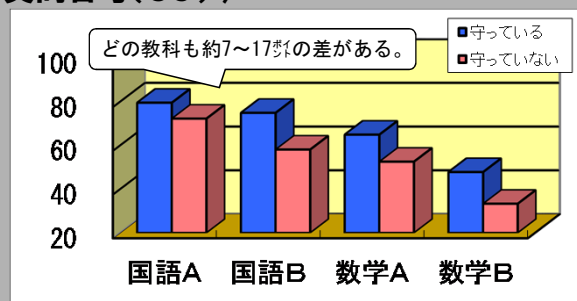
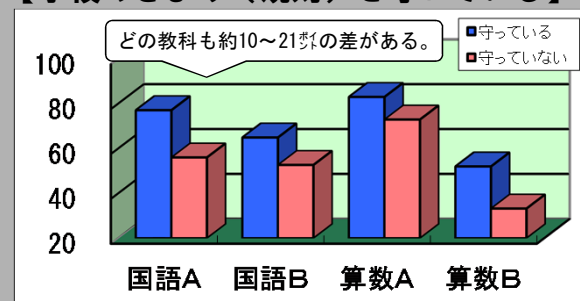
【資料14】

### 【家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている】〈質問番号（19）〉



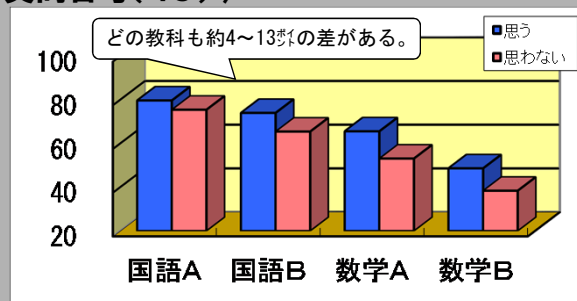
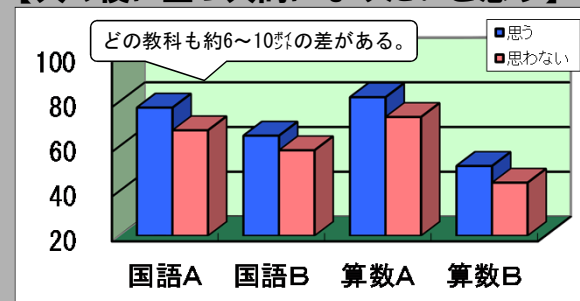
○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしているという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【学校のきまり（規則）を守っている】〈質問番号（39）〉



○学校のきまり（規則）を守っていますかという質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生とも相関が顕著である。

### 【人の役に立つ人間になりたいと思う】〈質問番号（43）〉



○人の役に立つ人間になりたいと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

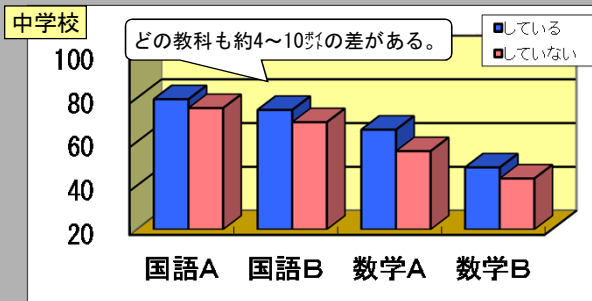
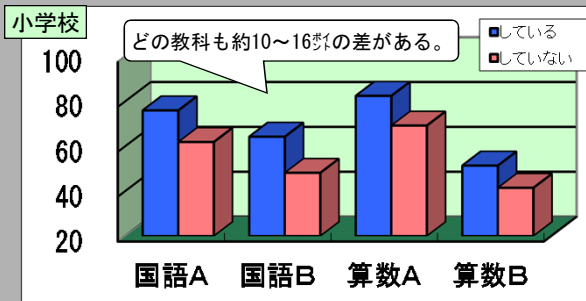
# V 学習環境と学力調査との相関

## 【学習習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

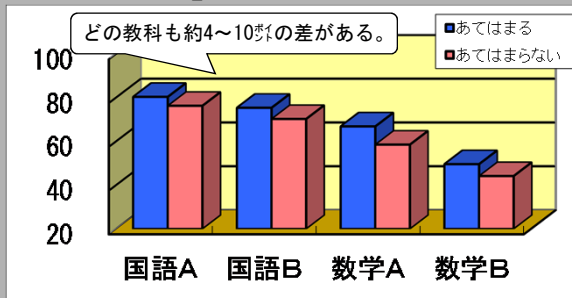
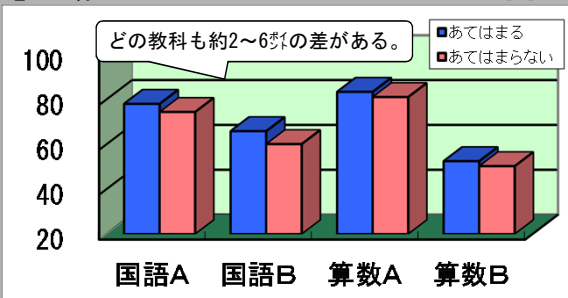
### 【家で、学校の授業の復習をしている】〈質問番号（24）〉

【資料15】



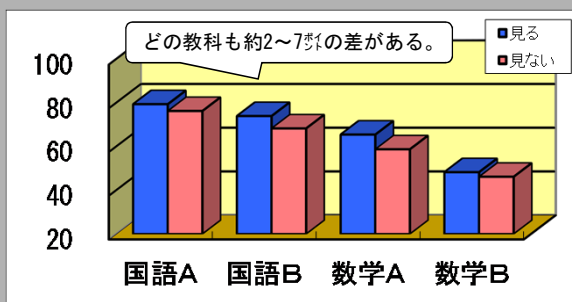
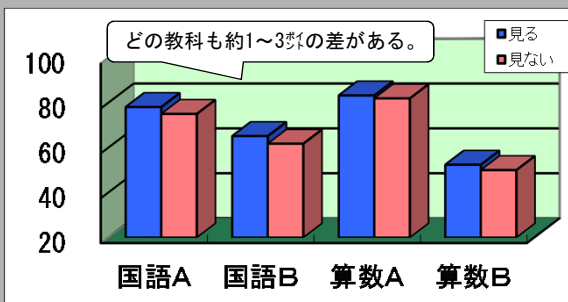
○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、特に小学校で相関が顕著である。

### 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある】〈質問番号（35）〉



○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますかという質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る】〈質問番号（38）〉



○テレビ番組のニュースやインターネットのニュースを見ますかという質問に、「よく見る」「時々見る」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

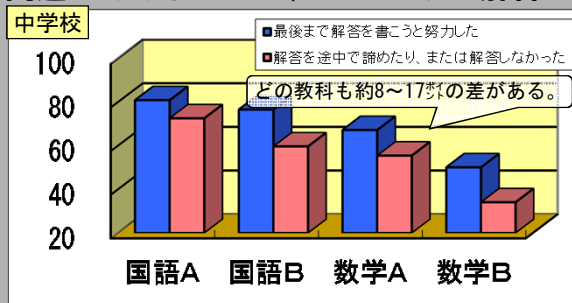
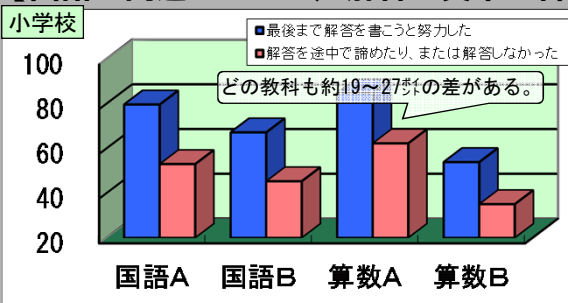
# V 学習環境と学力調査との相関

## 【調査問題への取組】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

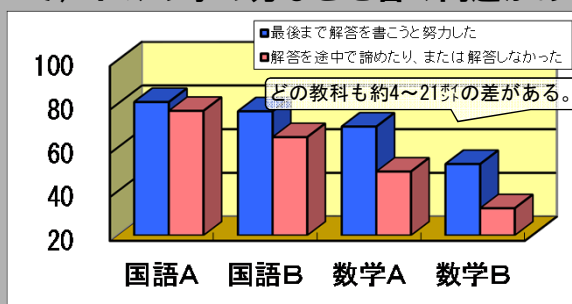
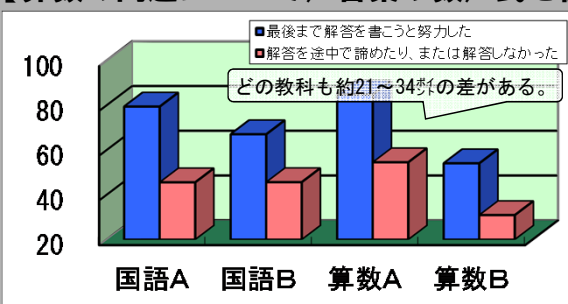
【国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか】〈質問番号(70)〉

【資料16】



○国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

【算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか】〈質問番号(81)〉



○算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

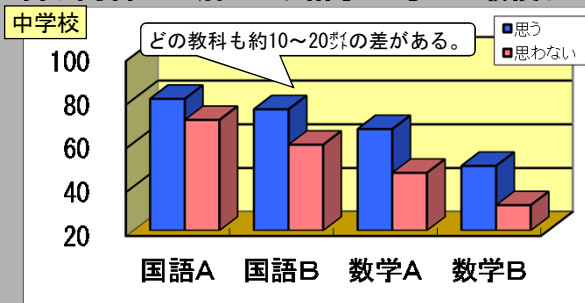
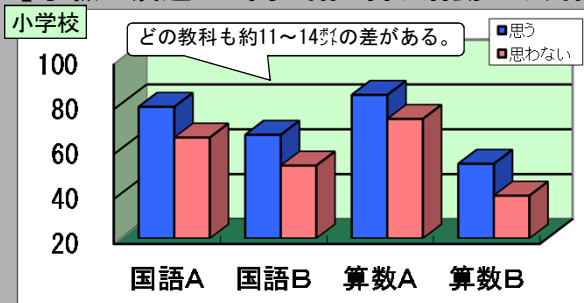
# V 学習環境と学力調査との相関

## 【授業への取組】

【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

【資料17】

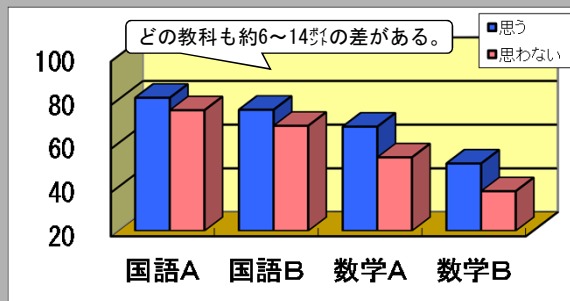
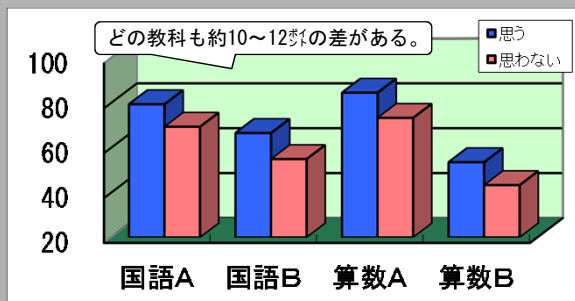
【学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う】



〈 質問番号 (51) 〉

○学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

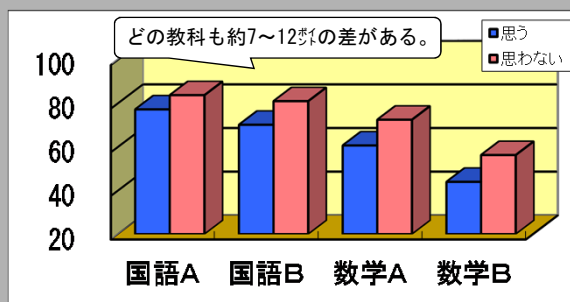
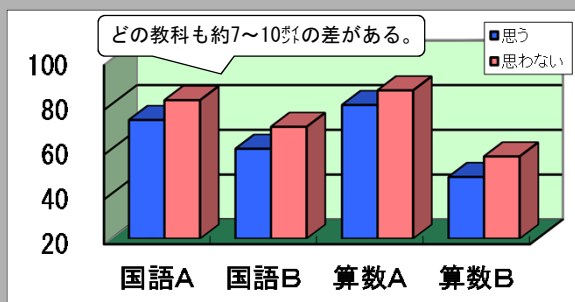
【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う】



〈 質問番号 (52) 〉

○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う】〈 質問番号 (58) 〉



○授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますかという質問に、「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。



# VI 学校質問紙調査の結果

## 1 概要

- 学習指導については、児童生徒を主体とした学習展開、補充的な学習サポート、活用に関わる指導、全国学力・学習状況調査を活用した指導等に関して、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 読書、学び方、生き方等に関わる指導、保護者との連携等に関しても、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

## 2 結果

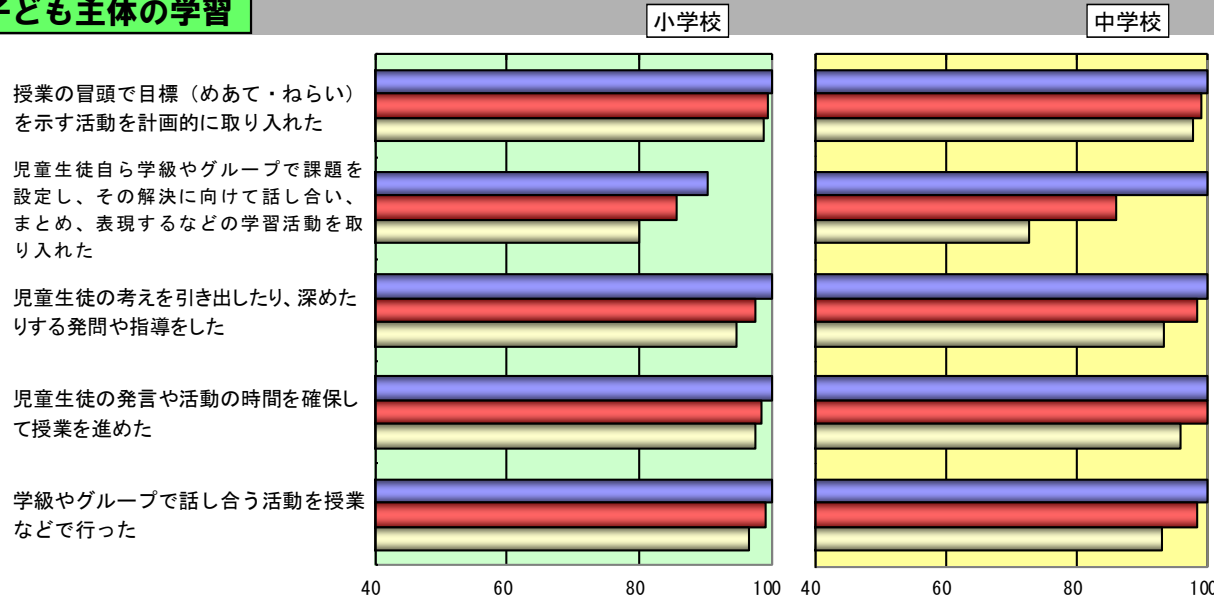
### (1) 学習指導－1

※H27年度の状況について回答するもの

【(あてはまる＋どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

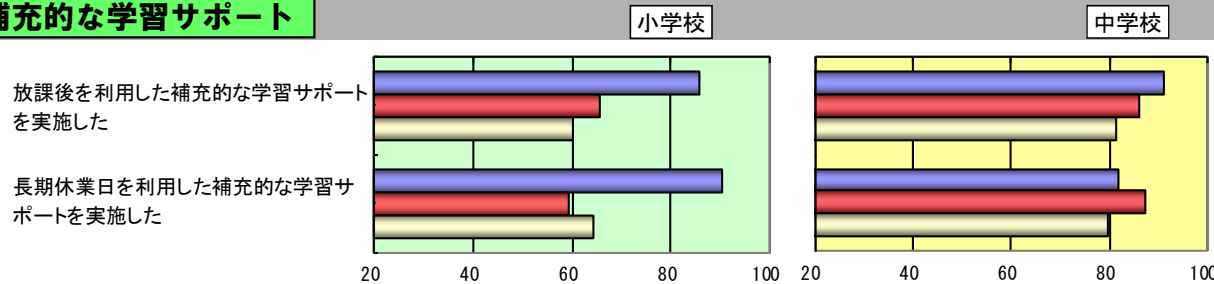
【資料18】

#### 子ども主体の学習



- 子ども主体の授業については、小・中学校共に、ほとんどの質問項目で肯定的な回答が100%であり、各学校の意識の高さが伺える。特に、中学校で「話し合う活動を授業などでよく行っている」割合が増えている。
- 「話し合う活動」については、小・中学校共に、「よく行っている」割合が増えている。
- 児童生徒質問紙からは、ほとんどの児童生徒が、子ども主体の学習指導が展開されていることを実感していることが伺える。

#### 補充的な学習サポート



- 各学校では、全国や県に比べて放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している割合が高く、特に小学校では長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合も高く、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。

# Ⅵ 学校質問紙調査の結果

## (1) 学習指導－2

※H27年度の状況について回答するもの

### 活用にかかわる指導

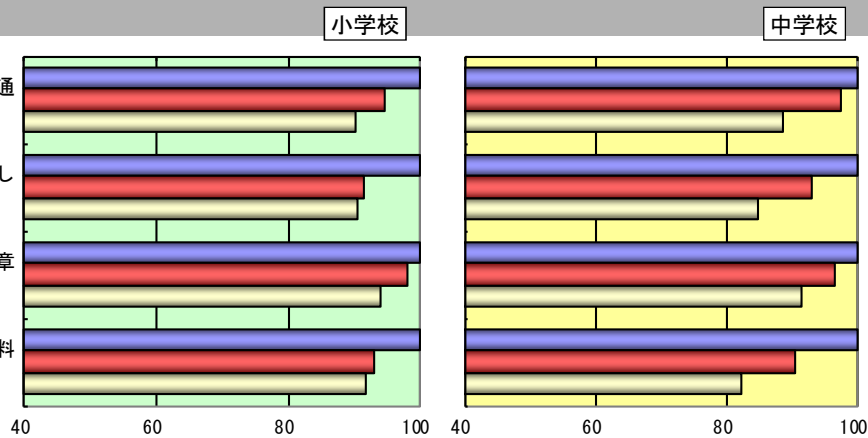
◆ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

資料を使って発表ができるよう指導した

自分で調べたことや考えたことを文章に書かせる指導をした

本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した

◆新設問



### 【資料19】

- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことに、小・中学校共に意欲的である。子ども主体の探究型学習指導の展開との相乗効果がB問題の成果に表れているものと思われる。
- 小・中学校共に、資料を使って発表する指導、書かせる指導については、意識して行われている。
- 本やインターネットなどを使った資料の調べ方指導については、小・中学校共に国や県を大きく上回っている。

## (2) 学び方、生き方等指導

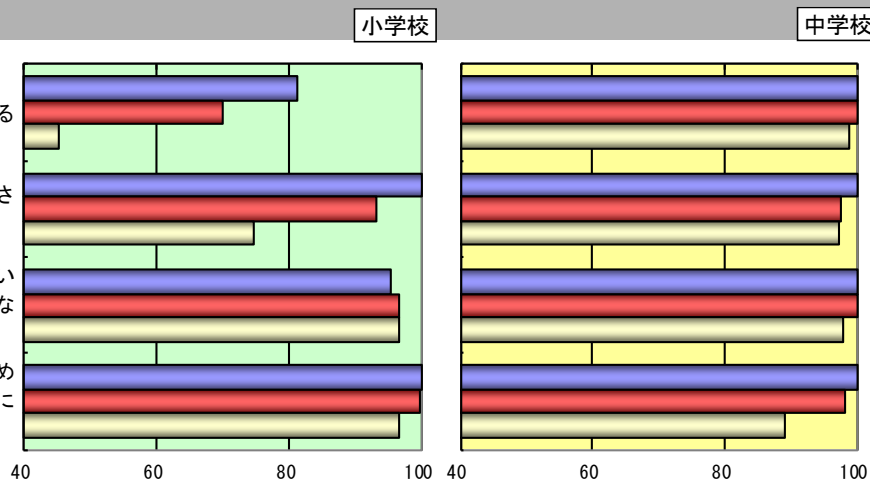
### 学び方、生き方等の指導

職場見学や職場体験活動を行っている

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学習規律（話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底した

授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した



【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

### 【資料20】

- 生き方、学び方等の指導については、小・中学校共に意識が高い。
- 生き方指導については、小・中学校共に意識が高く、キャリア教育の成果がうかがえる。
- 各学校では、学力向上の土台となる学習規律や学習方法に関する指導が充実している。
- 「ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した」という設問については、小・中学校共に100%であり、ノート指導の徹底が図られていることが伺える。

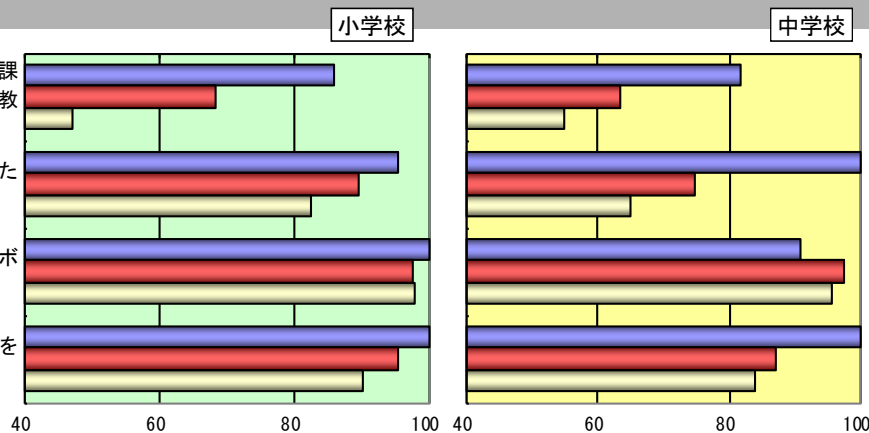
# VI 学校質問紙調査の結果

## (3) 交流と連携

※H27年度の状況について回答するもの

### 保護者や地域との連携

- 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った
- P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれた
- 昨年度の調査結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけた



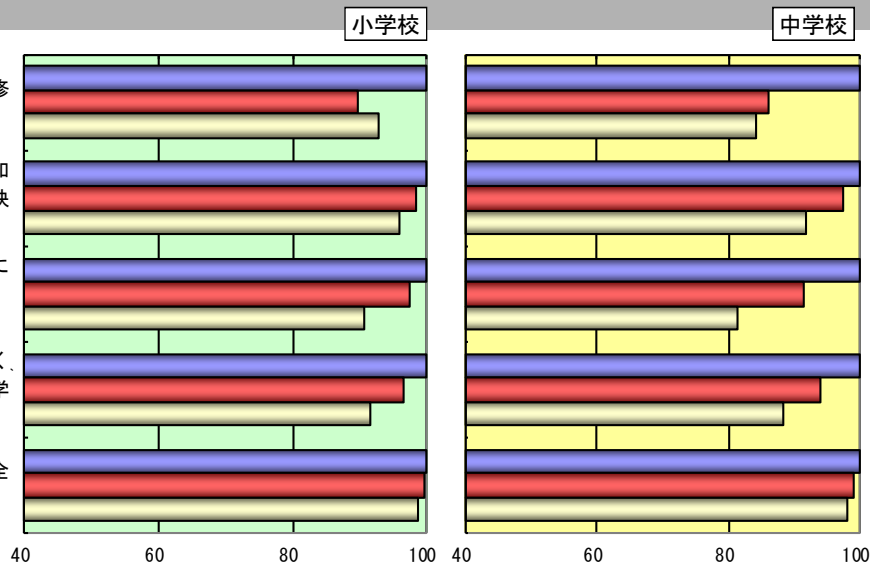
### 【資料21】

- 各学校の取組は、ほとんどの項目で全国や県を上回っており、市教委が重点としている交流と連携を通して「複数の目で子どもを育てること」に対する積極的な取組姿勢が表れている。
- 小・中学校の円滑な接続を図るため、9年間を見通した学習指導の充実について、さらに各中学校区での連携を充実させていきたい。
- 保護者や地域からの信頼と協力があって、児童生徒の安定した学習環境が構築されていることを再確認したい。

## (4) 学校の研修体制

### 研修体制

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った
- 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させた
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりした
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ
- 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

### 【資料22】

- 各学校の取組は、全国や県を上回っており、研修に関するほとんどの質問項目で、肯定的な回答が100%である。「言語活動について学校全体で取り組んだ」という設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、教科の枠を超えた組織的な研修体制が確立されてきた。
- 調査の結果や研修の成果を授業改善に活用しようとする前向きな取組が、児童生徒の学力の維持につながっていると捉えている。